

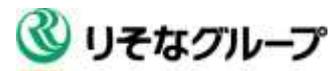
◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンズリー

No.7

2018/01/31

りそなホールディングス 市場企画部



(2018年2月号)

○今月の相場見通し (サマリー)

※各マーケットコメントは1月31日(水) 9:00現在

		1月30日現在 (矢印は12月末比)	2月の予想	
為替相場	ドル・円 (円)	↘ 108.78	上昇 ↗	105.50 ~ 113.00
	ユーロ・円 (円)	↘ 134.91	横ばい ⇒	130.00 ~ 137.00
株式相場	日経平均 (円)	↗ 23,292	横ばい ⇒	22,500 ~ 24,500
	NYダウ (ドル)	↗ 26,077	下落 ↘	25,000 ~ 27,500
長期金利	日本 (%)	↗ 0.09	横ばい ⇒	0.00 ~ 0.12
	米国 (%)	↗ 2.72	低下 ↘	2.55 ~ 2.90

○今月の注目ポイント

各国中銀の金融政策の行方		
テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	○	<p>【景気動向】米大手IT企業は税制改正を受けて、国外資金の還流や国内雇用増加を発表した。他社も追随するようであれば、米減税政策の実体経済への効果が高まる。一方、景気過熱感の議論への発展も</p> <p>【物価動向】米CPIは緩やかながら底入れの兆しが窺える。賃金への波及も徐々に見られるであろう</p>
金融政策	◎	<p>【米国金融政策】3日にイエレンFRB議長が退任し、パウエルFRB新体制が始動。議会証言では、日欧中銀と比較したタカ派スタンスが鮮明となろう</p> <p>【日銀金融政策】日銀総裁・副総裁人事案が閣議決定される可能性がある。現行の黒田総裁の路線が継続される見込み</p> <p>【ECB金融政策】9月以降の量的緩和に関する議論が浮上する可能性はあるが、ユーロ高への警戒感強いなか、利上げ論議は先送りされよう</p>
政治	○	<p>【米国政治】2/8に暫定予算期限を迎える。幼少時に親に連れられ不法入国した移民を保護するDACAの取り扱いが焦点。前期限到来時(1/19)は期限内に可決とならず3日間一部政府機関が閉鎖となった。今回も予算案成立が難航すれば、政権への信認低下し、政策遂行に影響</p>
地政学リスク	△	<p>【平昌五輪と朝鮮半島】1月は平昌五輪参加を巡り、南北朝鮮で対話が実現した。五輪開催を通じて朝鮮半島の緊張緩和が進めばリスクオン相場。北朝鮮では2/8に朝鮮人民軍創建日、2/16に金正日前総書記の命日など記念日が続くが、五輪期間中のミサイル実験はない見込み。</p>

今月の見通し

為替

【ドル円】ドル円は徐々に下げ渋り、月末にかけて緩やかに戻りを試すテクニカルな下振れリスクはあるものの、日米の金融政策スタンスの差は明確。ユーロ高の一服も相俟って、ドル円は徐々に戻りを試すものと想定する

【ユーロ】ユーロは月末に向けてじり安、ユーロ円はもみ合いを予想
ECBは12月の理事会でユーロ高への懸念を表明。金融市場が織り込むECBの利上げ観測は徐々に剥落に向かい、ユーロには重石となろう。3/4にイタリア総選挙を控え、政治面での不透明感は強く、月末にかけてじり安を見込む

株式

【日本株】年初からの急ピッチな株価上昇の反動から売り圧力がかかりやすいが、**ドル円の反発や、日銀のETF買いに支えられ、もみ合う展開を予想する。**

【米国株】税制改正やインフラ投資への期待感を背景とした**上昇の反動から売り先行を予想**。FRBの金融政策スタンスを受けたドル反発も重石となる。売り一巡後は、良好なファンダメンタルズを背景に、**徐々に底入れに向かうであろう**

長期金利

【円金利】日本国債の10年までのゾーンは引き続き良好な需給を背景に**0.02-0.08%を中心とした横ばい圏での推移を見込む**。不意の金利上昇には日銀が国債買入オペで対応し、一方向に金利が上昇する展開は回避されるであろう

【米金利】米国債は**金利低下を見込む**。10年債・30年債入札では増発も予想され、需給面で金利は上昇しやすい。入札をこなせば、FRBの示す長期の政策金利ターゲットである2.75%近辺を目途に長期・超長期ゾーンに買いが入るとみる

○今月の重要日程

1日(木)	米	1月ISM (製造業)	9日(金)	韓	平昌五輪
2日(金)	米	1月雇用統計	12日(月)	米	予算教書提出
3日(土)	米	イエレンFRB議長任期満了	14日(水)	日	10-12月期GDP
7日(水)	米	10年債入札	14日(水)	欧	10-12月期GDP
8日(木)	米	30年債入札	14日(水)	米	1月CPI
8日(木)	米	暫定予算期限	15日(木)	中	旧正月 (~21日)

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

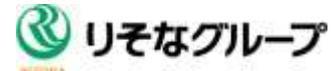
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンズリー

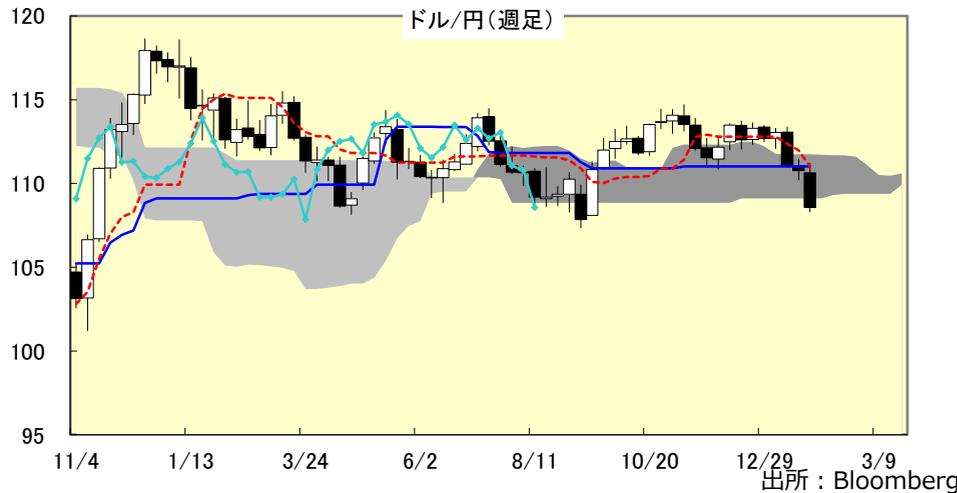
(2018年2月号)

2018/01/31



○今月の相場見通し① 為替

ドル 円



米ドル・円



ドル・円は上昇

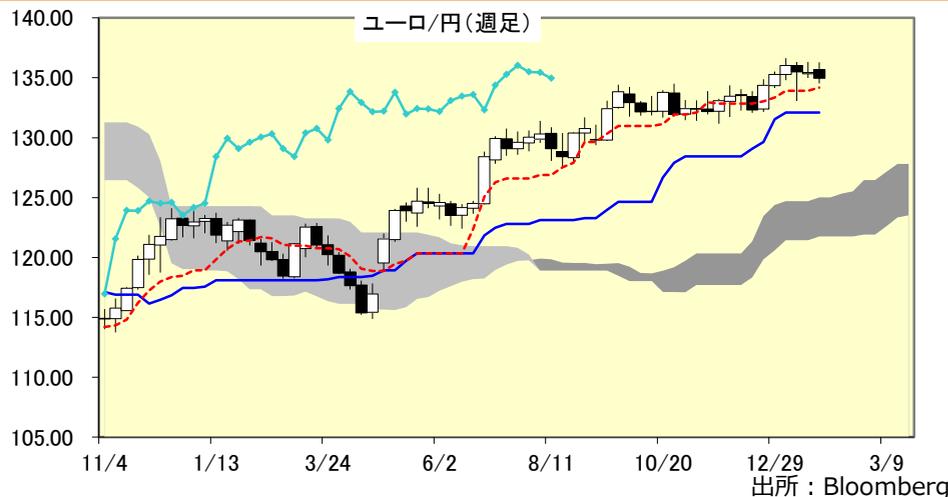
105.50 - 113.00円

ドル円は徐々に下げ渋り、月末にかけて緩やかに戻りを試す

年明け以降急速にドル安が進行。テクニカル的には2012年以降の下値支持線や9/8につけた107円32銭の直近安値に迫っており、下振れリスクが意識される形状。しかし、日米の金融政策格差は依然大きいことを勘案すると徐々にドルは下げ渋るとみる。またこれまでドル安を牽引してきたユーロも上昇一服と見ており、ドル円には下支え材料となるであろう。

FRBはイエレンFRB議長が退任し、パウエル新議長体制が始動する。2月中旬には議会証言も予定されており、中央銀行のスタンスの違いは鮮明となろう。国内では月内に黒田日銀総裁や日銀副総裁人事公表の可能性があるが、交代があっても現状路線の踏襲がメインシナリオ。テクニカル的な円高進行が警戒される中で、日銀サイドも不用意な発言は避けるであろう。ドル円は徐々に下値を固め、月末にかけては緩やかに戻りを試すものと予想する。

ユ - 円



ユーロドル



ユーロドルは下落

1.20 - 1.27ドル

ユーロ円



ユーロ円は横ばい

130.00 - 137.00円

ユーロは月末にかけてじり安、ユーロ円はもみ合いを想定

12月ECBでは声明文で為替のボラティリティを警戒する文言を追加し、昨年9月以来となるユーロ高牽制を実施した。またフォワードガイダンスの見直しについては、現状、9月末終了期限の国債買入を年末まで延長し、慎重に減らしていく案が有力。利上げの議論は依然先であろう。既に金融市場では来年以降50bp近くの利上げが見込まれ、行き過ぎ感がある。今後利上げ観測は徐々に剥落していくと見られ、ユーロ相場には重石となろう。3/4にポピュリズム政党の台頭が警戒されるイタリア総選挙を控えていることも、懸念される。月末にかけて下値を探る展開を想定する。

ユーロ円は、ドル円が戻りを試す中で、下値も限定的。引き続き方向感に乏しいであろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

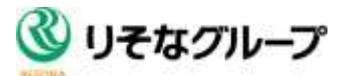
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

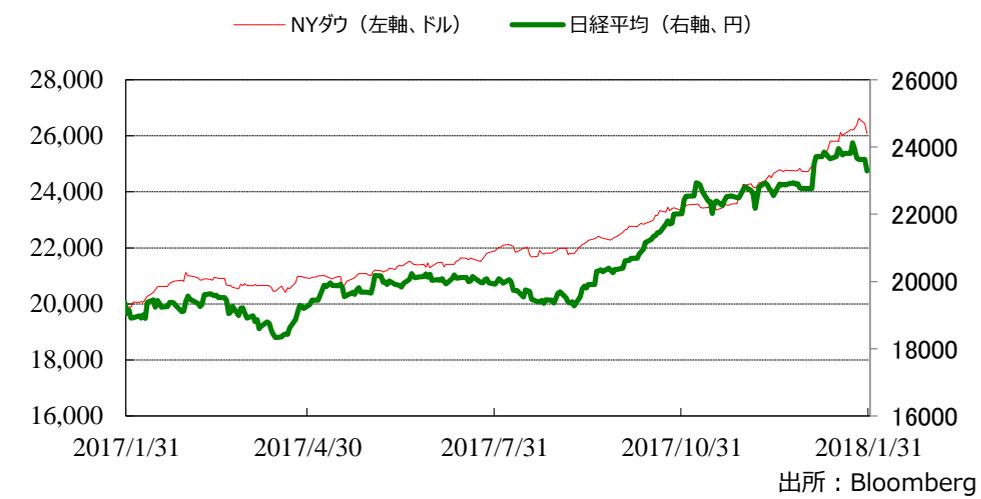
(2018年2月号)

2018/01/31



○今月の相場見通し② 株式、長期金利

株式見通し



日経平均 → 日経平均は横ばい **22,500 - 24,500円**

売り先行後、ドル円の反発や日銀のETF買いに支えられ、値を戻す展開を想定。
 年初からの急ピッチな日本株上昇の反動から売り圧力がかかりやすく、月初は売りが先行しよう。売り一巡後は、ドル円の反発が想定されるほか、下落局面では日銀のETF買いが入り、徐々に値を戻す展開を予想。

NYダウ ↘ ダウは下落 **25,500, - 27,500ドル**

税制改正やインフラ投資への期待感を背景とした上昇の反動から売り先行を予想。
 FRBの金融政策スタンスを受けたドル反発も重石となり、調整地合いとなりやすい。売り一巡後は、良好なファンダメンタルズや税制改革の実体経済への波及効果から底堅く推移する見込み。

長期金利見通し



日本国債10年 → 金利は横ばい **0.00 - 0.12%**

日本国債の10年までのゾーンは引き続き良好な需給を背景に0.02-0.08%を中心とした横ばい圏での推移を見込む。 不意の金利上昇には日銀が国債買入オペで対応し、一方に金利が上昇する展開は回避されるであろう。月内に日銀の正副総裁人事案が公表される可能性があるが、現状路線踏襲がメインシナリオであり、影響は限定的であろう。

米国債10年 ↘ 金利は低下 **2.55 - 2.90%**

米国債は金利低下を見込む。 10年債・30年債入札では増発も予想され、月初は需給面で金利は上昇しやすい。一方、入札をこなせば、FRBの示す長期の政策金利ターゲットである2.75%近辺を目途に長期・超長期ゾーンに買いが入るとみる。期待先行で上昇した株価の調整も下支えとなるであろう。

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

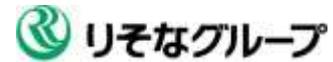
3

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2018年2月号)

2018/01/31



○マーケットカレンダー

【前半】

	日本	米国	その他
2/2(金)	1月マネタリーベース	★1月雇用統計 12月製造業受注	
2/5(月)		1月ISM非製造業景況感指数	(EU)12月小売売上高
2/6(火)	10年物価連動債入札	12月貿易収支	(豪)12月小売売上高 (豪)12月貿易収支 (豪)準備銀行理事会 ★(独)12月製造業受注
2/7(水)	12月景気動向指数 12月毎月勤労統計 国庫短期証券(6ヶ月)	12月消費者信用残高	★(中)1月貿易統計 ★(独)12月鉱工業生産
2/8(木)	★1月景気ウォッチャー調査 12月国際収支 1月貸出・預金動向 30年債入札 国庫短期証券(3ヶ月)		(NZ)準備銀行理事会 ★(独)12月貿易収支
2/9(金)	12月第3次産業活動指数 1月マネーストック		(英)12月鉱工業生産・製造業生産
2/12(月)		1月財政収支	
2/13(火)			(英)1月CPI
2/14(水)	★10-12月期GDP1次速報値 5年債入札	★1月CPI ★1月小売売上高 12月企業在庫	(EU)10-12月期四半期GDP (EU)12月鉱工業生産
2/15(木)	★12月機械受注 12月稼働率 国庫短期証券(3ヶ月)	★1月鉱工業生産 12月対米証券投資 2月NY連銀製造業景況指数 2月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	(豪)1月失業率
2/16(金)	国庫短期証券(1年) <small>流動性供給入札(残存期間15.5年超39年未満)</small>	★1月住宅着工 1月輸入物価指数	

【後半】

	日本	米国	その他
2/19(月)	★1月貿易統計		
2/20(火)	<small>流動性供給入札(残存期間5年超15.5年以下)</small>		(EU)2月消費者信頼感指数 (独)1月PPI
2/21(水)	12月全産業活動指数	★1月中古住宅販売件数	(英)1月失業率
2/22(木)	20年債入札 国庫短期証券(3ヶ月)	1月景気先行指数	★(独)2月IFO景況指数
2/23(金)	★1月CPI		(EU)1月CPI
2/26(月)		★1月新築住宅販売 1月シカゴ連銀全米活動指数	
2/27(火)	2年債入札	★12月S&PコアロジックCS住宅価格指数 2月リッチモンド連銀製造業景況指数	(EU)1月マネーサプライ ★(独)2月CPI
2/28(水)		10-12月期GDP改定値 2月シカゴ地区製造業PMI	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2018年2月号)

2018/01/31



○市場動向

		17年3月末	17年6月末	17年9月末	17年12月末	1/30(火)		
外国為替	東京	ドル・円(仲値)	116.55	112.81	112.00	112.74	111.62	
		ユーロ・円(仲値)	122.79	119.81	128.02	132.81	132.27	
		豪ドル・円(仲値)	84.38	85.82	86.24	88.56	84.89	
		NZドル・円(仲値)	81.24	78.47	82.04	81.45	76.91	
		ドル・円(15:30時点)	111.79	112.06	112.69	112.70	108.69	
		ユーロ・円(15:30時点)	119.43	128.11	132.75	134.69	134.31	
		ユーロ・ドル(15:30時点)	1.0684	1.1433	1.1780	1.1950	1.2357	
		ドル円直先为レド(3か月、銭ドル)	d 41.3	d 45.6	d 53.9	d 54.2	d 57.9	
N Y		ドル・円	111.39	112.39	112.51	112.69	108.78	
		ユーロ・ドル	1.0652	1.1426	1.1814	1.2005	1.2402	
		英ポンド・ドル	1.2550	1.3025	1.3398	1.3513	1.4147	
		スイスフラン・ドル	1.0026	0.9579	0.9683	0.9743	0.9348	
株式	東京	日経平均(225種/円)	18,909.26	20,033.43	20,356.28	22,764.94	23,291.97	
		東証株価指数(TOPIX)	1,512.60	1,611.90	1,674.75	1,817.56	1,858.13	
		日経ジャスダック指数	3,045.84	3,251.67	3,593.10	3,950.46	4,252.36	
		東証マザーズ指数	1,070.89	1,181.74	1,093.10	1,231.99	1,318.92	
		東証1部出来高(百万株)	2,222.23	1,968.97	1,731.36	889.15	1,702.72	
	海外		NYダウ(ドル)	20,663.22	21,349.63	22,405.09	24,719.22	26,076.89
			ナスダック総合指数	5,911.74	6,140.42	6,495.96	6,903.39	7,402.48
			中国上海総合指数	3,222.51	3,192.43	3,348.94	3,307.17	3,488.01
		SENSEX(インド)	29,620.50	30,921.61	31,283.72	34,056.83	36,033.73	
		ブラジルボベスパ指数	60,227.29	62,899.97	74,293.51	-	84,482.46	
		MICEX指数(ロシアドル建)	1,995.90	1,879.50	2,077.19	2,109.74	2,280.36	
商品		金(NY先物、期近)(ドル)	1,247.30	1,242.30	1,281.50	1,309.30	1,335.40	
		原油(WTI先物、期近)(ドル)	50.60	46.04	51.67	60.42	64.50	
		CRB先物指数	185.88	174.78	183.09	193.86	198.14	

		17年3月末	17年6月末	17年9月末	17年12月末	1/30(火)	
国内金利	無担保コール	オールナイト物	-0.060	-0.069	-0.063	-0.062	-0.044
	日本円TIBOR	3か月	0.05727	0.05727	0.05727	0.06727	0.06909
		6か月	0.10636	0.10636	0.10636	0.11636	0.12636
	利付2年国債	新発債	-0.195	-0.224	-0.119	-0.170	-0.115
	利付5年国債	新発債	-0.114	-0.125	-0.070	-0.145	-0.070
	利付10年国債	新発債	0.041	0.065	0.084	0.000	0.065
	利付20年国債	新発債	0.570	0.630	0.590	0.535	0.595
	円/円スワップ	2年	0.05065	0.04250	0.03549	0.04517	0.06024
		5年	0.10307	0.09877	0.10999	0.10613	0.13262
		10年	0.26436	0.25208	0.26370	0.27050	0.30009
20年		0.67917	0.63193	0.65865	0.66423	0.68699	
海外金利	米金利	FFレート	0.81	1.05	1.05	1.31	1.16
		TB(3か月)	0.752	1.011	1.041	1.376	1.442
		T-NOTE(10年債)	2.387	2.304	2.334	2.405	2.720
	LIBOR	日本円(3か月)	0.02593	-0.00014	-0.05121	-0.02417	-0.04050
		米ドル(3か月)	1.14956	1.29917	1.33389	1.69428	1.77340
		ユーロ(3か月)	-0.35786	-0.37200	-0.37943	-0.38471	-0.37700
		英ポンド(3か月)	0.33744	0.30669	0.33500	0.52106	0.52450
		スイスフラン(3か月)	-0.72960	-0.73000	-0.72600	-0.74620	-0.74500
		豪ドル(3か月)	1.79000	1.71000	1.71000	1.77890	1.77380
		NZドル(3か月)	2.00500	1.99000	1.96000	1.88000	1.88500

(注) 月末が休日の場合は前営業日データ

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2018年2月号)

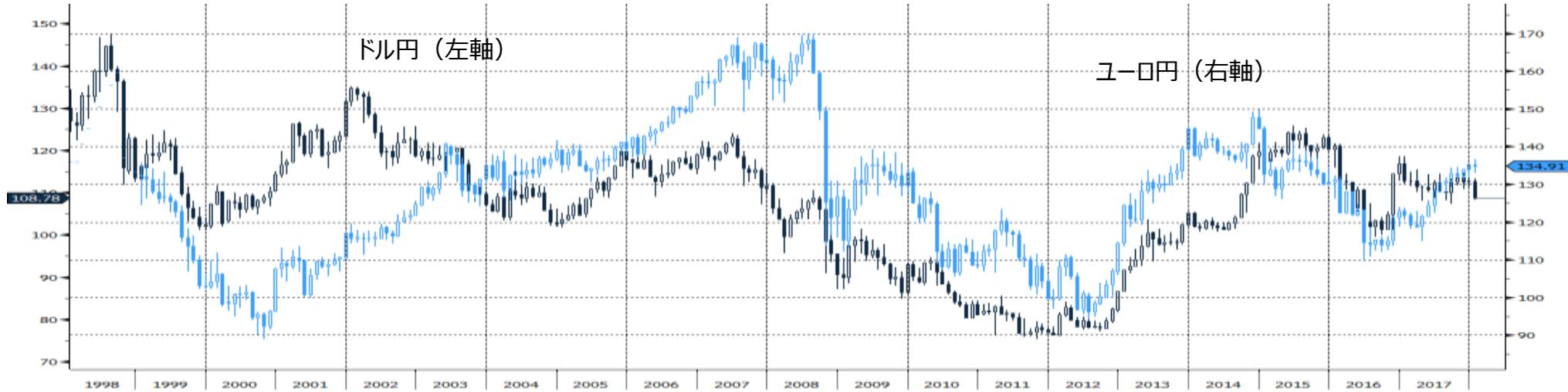
2018/01/31



○チャート集① 過去20年間の相場推移 (外国為替、株式)

出所：Bloomberg

ドル円とユーロ円



日経平均とNYダウ



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

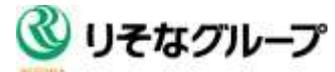
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2018年2月号)

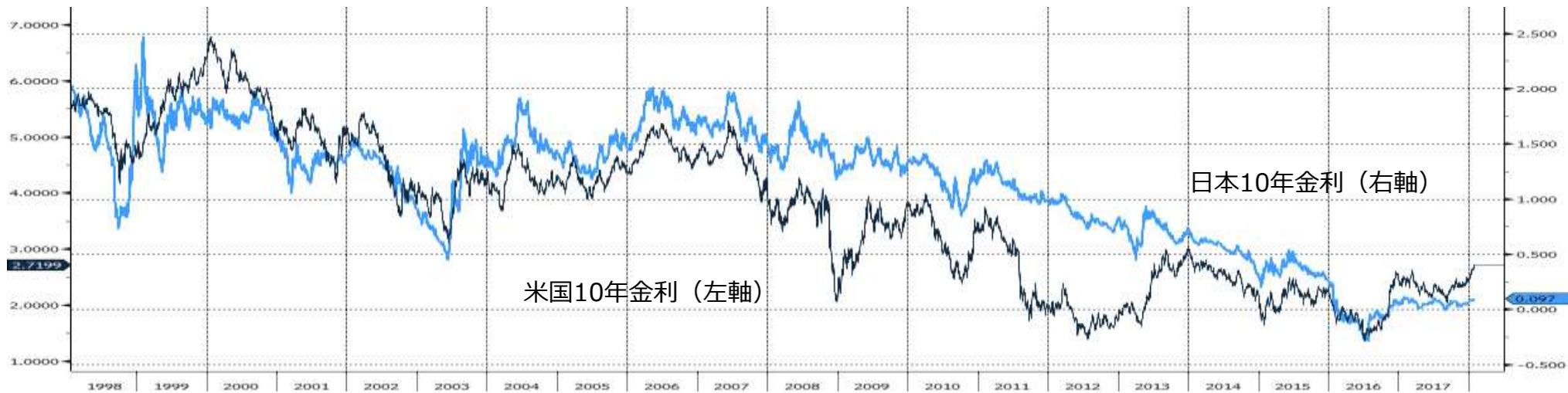
2018/01/31



○チャート集② 過去20年間の相場推移 (長期金利、商品)

出所 : Bloomberg

米国10年金利と日本10年金利



原油 (WTI原油先物) と 金 (NY先物)



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2018年2月号)

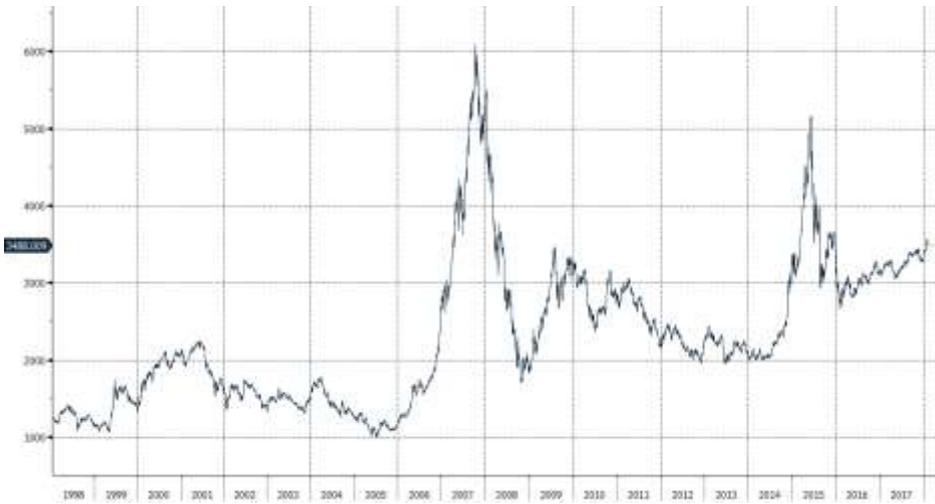
2018/01/31



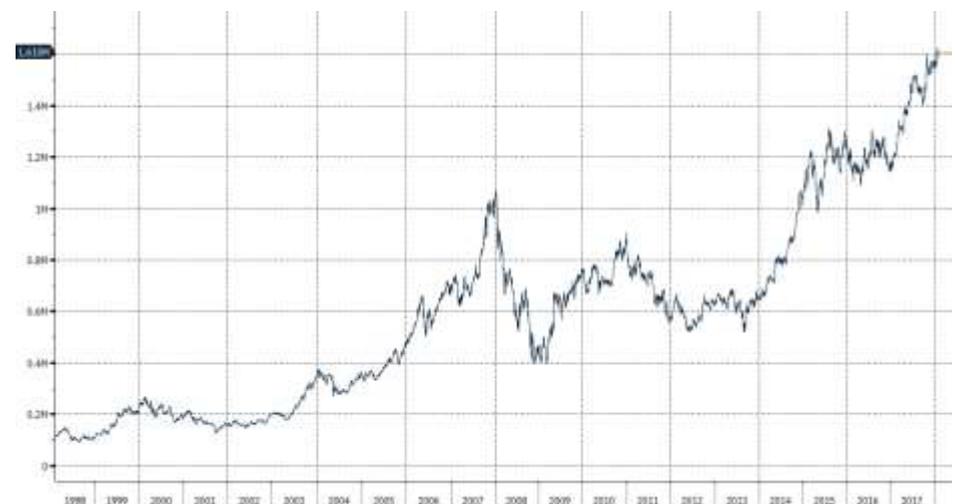
○チャート集③ 過去20年間の相場推移 (新興国株式)

出所：Bloomberg

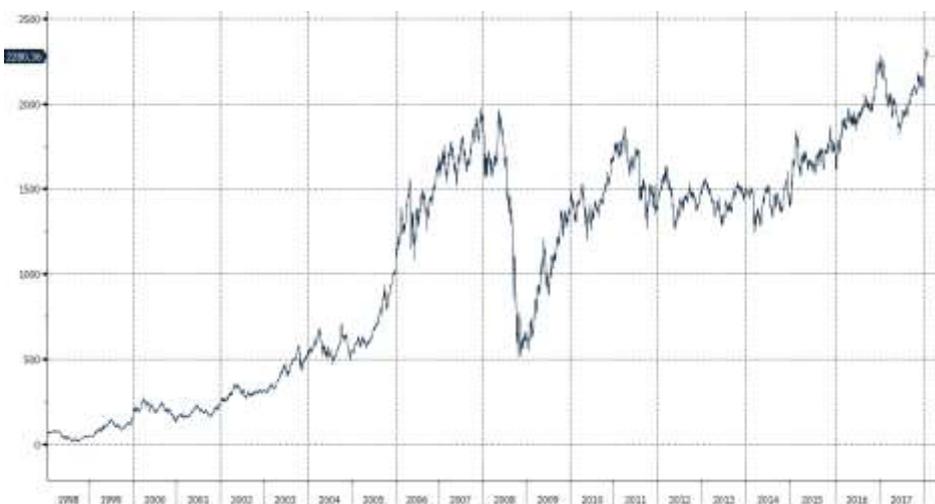
中国上海総合指数



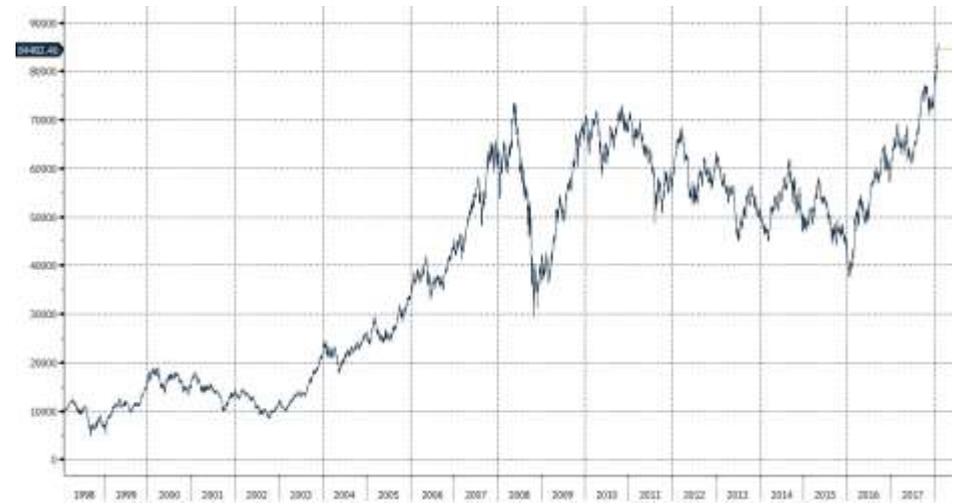
インドSENSEX指数



ロシアMICEX指数



ブラジルBOVESPA指数



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎景気の現状と見通し① 日本

景気の現状

緩やかな回復が続く

日本経済は、緩やかに回復。生産や設備投資は持ち直しており、堅調な外需を背景に貿易黒字が続く

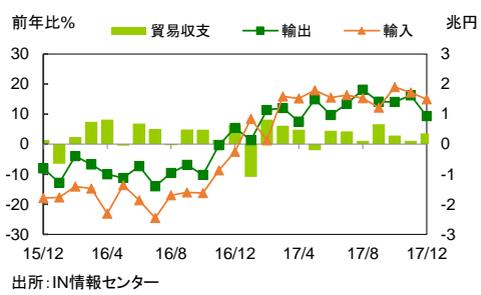
1-1 鉱工業生産、生産は持ち直している

12月鉱工業生産は、前月比+2.7%と上昇。経済産業省の製造業予測調査によると、1月は▲4.3%、2月は+5.7%の見通し。

1-2 7ヶ月連続で貿易黒字

12月貿易収支は3,590億円の黒字、7ヶ月連続の黒字。輸出は自動車や鉄鋼、半導体製造装置の増加が目立った一方、輸入は原油、石油製品などの鉱物性燃料が増加した。対米貿易収支は7,120億円と11ヶ月連続の黒字。対中貿易収支は▲1,977億円となったが、輸出額は1兆5,072億円と過去最大額を更新している。

貿易統計



機械受注

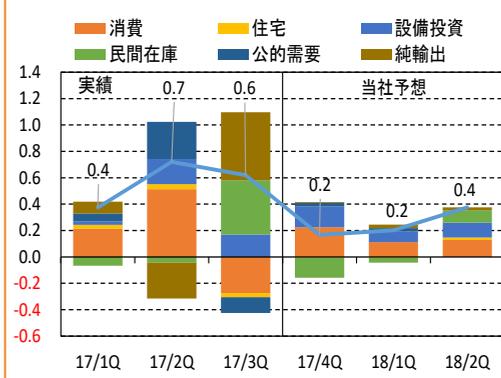


- 1-3 個人消費、実質ベースで3か月ぶりのマイナス
12月家計調査によると、1世帯当たり消費支出は、前年比▲0.1%と3か月ぶりのマイナス（11月+1.7%）。
- 1-4 機械受注、非製造業（船舶・電力を除く）、官公需、外需が増加
11月の機械受注によると、船舶・電力を除く民間からの受注額は、前月比+5.7%の8,992億円と増加。非製造業、官公需、外需が増加した一方、製造業は減少。
- 1-5 消費者物価指数、総合、コアのプラスが続く
12月消費者物価指数は総合CPIは前年比+1.0%、生鮮食品を除くコアCPIが前年比+0.9%。光熱費・水道が前年比+5.2%（11月+5.9%）の上昇が続く、コアの押し上げに寄与した。

GDP予想

GDP予想 – 2017年度 +1.8%、2018年度 +1.2%を想定

日本の2017年度の実質GDP成長率は前年度比+1.8%を想定。2018年度は+1.2%を想定。共に前月値を据え置き。2018年度は米中引き締めの影響から2017年度比鈍化を見込む。ただ、米国税制改革や消費増税前の駆け込み需要から緩やかな減速に留まる見通し。



%、内訳は寄与度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	実績	実績	予測	予測
実質GDP	1.4	1.2	1.8	1.2
個人消費	0.5	0.2	0.7	0.5
住宅投資	0.1	0.2	0.1	0.0
設備投資	0.4	0.2	0.6	0.5
在庫投資	0.2	-0.3	-0.0	0.1
公的需要	0.3	0.1	0.2	0.0
外需	0.1	0.8	0.4	0.2

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

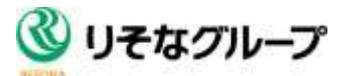
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。【出所】IN情報センター、りそなHD

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2018年2月号)

2018/01/31



○景気の現状と見通し② 米国・欧州・中国

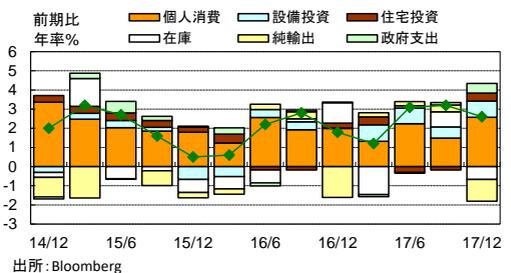
米国

米国経済、堅調地合いを維持

米国経済は、10-12月期GDPで堅調さが確認された。前期比年率+2.6%と前期からやや減速したものの、下押し要因は在庫投資であることや、GDPの7割を占める個人消費の伸びが目立ったから、米経済は堅調地合いを維持している。

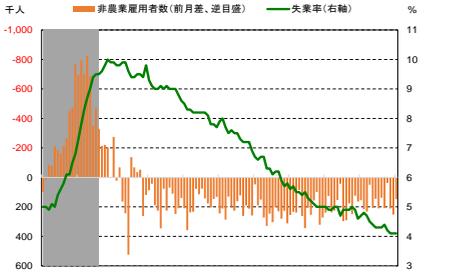
- 10-12月期GDP速報値、前期比年率+2.6% (7-9月期+3.2%)
- 個人消費が+3.8%、設備投資が+6.8%と牽引した一方、輸入や在庫がマイナス寄与となり、前期からはやや減速した。
- 12月雇用統計、非農業部門雇用者数は前月比+14.8万人
- 製造業+25千人(11月+31千人)、サービス業+91千人(11月+176千人)と伸びが鈍化。賃金は前年比+2.5%(11月+2.4%)と伸びが小幅に拡大。
- 12月小売売上高は前月比+0.4%、市場予想(+0.5%)を下回るも、年末商戦も堅調さが示された。
- 全13業種中9業種で売上が増加、無店舗小売り、建設資材、飲食サービスなどが増加した一方、その他小売り、スポーツ・書籍・趣味用品などが減少。
- 12月消費者物価、前年比+2.1%
- 総合は前年比+2.1%(11月+2.2%)、コアは前年比+1.8%(11月+1.7%)であった。

GDP



出所: Bloomberg

雇用統計



出所: Haver, りそなHD

欧州

ドイツ経済、景況感指数が過去最高値を更新

ドイツ経済指標は依然として良好、堅調な景気拡大が示唆された。11月鉱工業生産、小売売上高は前月から増加。貿易面では、黒字幅が拡大した。

- 1月景況感指数は、Ifo117.6、ZEW95.2といずれも過去最高値であり、堅調な景気が確認された。
- ユーロ圏の指標では、物価面では12月消費者物価指数が前年比+1.4%(11月+1.5%)とやや鈍化。

中国

10-12月期GDPは市場予想を上回る

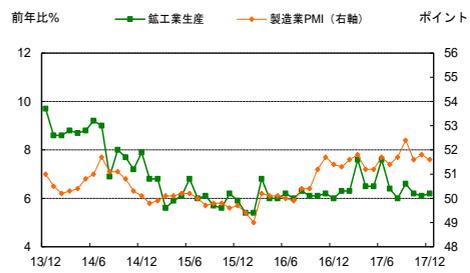
- 10-12月期GDPは前年比+6.8%と、市場予想(+6.7%)を上回った(7-9月期+6.8%)
- 12月の鉱工業生産は前年比+6.2%(11月+6.1%)と増加、貿易収支は5,469億米ドルと黒字幅が拡大(11月3,899億米ドル)、小売売上高は前年比+9.4%(11月+10.2%)と伸びが鈍化、固定資産投資(年初来)は前年比+7.2%(11月+7.2%)と伸びは変わらず。
- 12月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.8%と、11月+1.7%から伸び率は拡大した。

実質GDP成長率



出所: Haver, りそなHD

鉱工業生産と製造業PMI



出所: Haver, りそなHD

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。